

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪府営藤白台住宅 S5-1棟	階数	地上10F
建設地	大阪府吹田市藤白台一丁目	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	171人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年11月 予定	評価の実施日	2019年4月9日
敷地面積	3,309㎡	作成者	アール・アイ・エー上嶋 喜登
建築面積	535㎡	確認日	2019年4月11日
延床面積	4,268㎡	確認者	アール・アイ・エー川田啓一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 63% (92 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 63%

④上記+ 63%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<p>周辺になじむヒューマンスケールな建物デザイン及びランドスケープデザインとする。外部環境は団地全体の空間構造を読み取り、駐車・駐輪場の配置を決定し、ユニバーサルデザインにも配慮した。内部空間は、自然の昼光を十分に享受できるように配慮するとともに、維持管理のしやすさにも配慮。劣化対策等級3など、耐用性にも配慮した計画とする。</p>		<p>既存建物の杭基礎をなるべく避けた配置計画とすることで廃棄物の削減に配慮する。</p>
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<p>快適な室内環境を確保できるように配慮し計画した。内部空間は、自然の昼光を十分に享受できるように全住戸で冬至においても3時間以上日照が確保できる計画としている。</p>	<p>ユニバーサルデザインに配慮した快適な空間を提供できるように計画した。耐用性・信頼性については劣化対策等級3とするなど、十分に配慮した計画としている。</p>	<p>道路沿いの地域へのコミュニティ貢献、団地内コミュニティの促進のための集会所及び歩行者専用通路が交差する箇所での小単位でのコミュニティの空間といった場所に応じた広場の創出と緑化を合わせた計画としている。</p>
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<p>住宅性能表示基準の「断熱等性能等級」における等級3同等の性能を有する断熱材によりエネルギーの削減に配慮した計画とした。</p>	<p>節水型便器やリサイクル資材の採用など資源の再利用を図ると共に、水資源の保護に努めた計画とした。</p>	<p>適切な量の駐車場及び駐輪場台数の確保、光害を抑制した外構照明計画など、敷地外環境に配慮した計画とする。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0010

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	大阪府営藤白台住宅S5-1棟						
	建設地	大阪府吹田市藤白台一丁目						
	用途/区分	集合住宅						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						3	
③	建物の断熱性						3	
④	エネルギー削減						5	
⑤	自然エネルギー直接利用						○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—

エネルギー消費量の報告

対象外

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.4	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.0	3
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		